

うふうに見込んでございます。
MOXにつきましては、約二兆円というふうに見込んでございます。

日本原燃の経営状況についても御質問をいただきます。

使用済燃料の再処理、この事業費について十五・一兆に増加しているということでございますけれども、原燃の二〇二三年度の決算発表によりますと、同社は当期純利益で約九億円の黒字というふうに承知をしております。

電気料金への影響という点についても御質問がございました。

使用済燃料の再処理に必要な費用につきましては、再処理等拠出金法に基づきまして、原子力事業者が使用済燃料再処理・廃炉推進機構に支払う拠出金によって賄われてございます。これは最終的には電気料金によって回収されることになりますけれども、この拠出金単価は、再処理費用の長期的見通しに照らして適切であるかという観点から、この機構におきまして、毎年度、再処理等に必要なる事業費を見直し、それを基に、再処理や金融、会計の専門家から成る運営委員会での議決を経た上で決定しているところでございます。

○佐原委員 ありがとうございます。

昨日公表されたエネルギー基本計画原案は、国民の安全よりも原発を最優先し、原発を最大限活用し、推進するというものです。この計画案の中に福島県の反省という文言がございますが、この計画案は本当に福島県の原発事故を教訓としているのでしょうか。私にはそのようには思えません。形を変えること、原発をやめること、それは大変な勇気が要ることだと思います。しかし、もしこのことを、経済産業省がその英断のなを振るつたならば、国民は拍手喝采をすると思えます。

私は、これからも原発廃止、核燃料サイクル廃止を訴えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

武藤大臣、今日は本当にありがとうございます。

た。るるいろいろ伺いましたが、本当に参考になりましたので、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

○宮崎委員長 次に、辰巳孝太郎君。

○辰巳委員 日本共産党の辰巳孝太郎でございます。

私は、大阪でカジノ万博問題プロジェクトチームの責任者を務めてきました。今日、この万博問題をとり上げて質問をいたします。

この万博会場である夢洲一区において、三月の二十八日、大規模な爆発事故が起きました。地中から排出をされていますメタンガスが引火をしたというものであります。

さて、今日資料にもつけましたので、ちょっと見ながら、説明もしながらやりたいと思いますけれども、万博会場、いわゆるリングというのが真ん中にありますけれども、この左の方にグリーンワールドとありますが、ここが夢洲一区というところなんです。リングがあるところは夢洲二区ということになります。ちなみに、白くなっていますけれども、この北側にあるのが、これはIR、カジノの予定地ということになります。

さて、この夢洲一区なんですけれども、ちょっと小さくて見えにくいかもしれませんが、屋外イベント広場というのがあったり、営業施設というところで幾つかあると思いますけれども、この夢洲一区にもフードコートやファストフード、あるいはカフェなどが公募をされております。ただ、この仕様書を見ますと、契約書の中身を見ますと、この夢洲一区のこういった飲食店は、火を使ってはならないということになっているんです。

確認しますけれども、経産省、何で火を使ったら駄目なんですか。

○茂木政府参考人 お答え申し上げます。

夢洲一区でございますが、会場内の営業施設でございます。これは、まず、環境負荷の低減という観点から、会場全体でございますが、調理には

原則的にガスの使用はできないということになっておりまして、IH、電気調理器の使用を条件に公募を行っております。

したがって、今御指摘があったフューチャライフゾーンとか西ゲートゾーンとかを含むグリーンワールドだけではなくて、全体が、そういう形で原則的にガスの使用ができないということで公募を行っているということでございます。

○辰巳委員 ちょっと信じ難いですよね。環境の負荷の低減と言うんですけども、この夢洲一区では、今申し上げたとおり、三月の二十八日にガス爆発事故が起きたわけなんです。だから、裸火を使ってはならないという契約ということになっています。

これは、ガスがまだ出続けているんですよ。ガス爆発事故で終わりではなくて、出続けているというところなんです。メタンガスだけではありません。一酸化炭素、硫化水素、アンモニア、これが出ているんですね。これは、命輝くどころか、命に関わる有害な物質が出続けているというのが万博会場なんです。何でわざわざこんなややこしいところに会場を決めたのかということとなんです。

当初、この夢洲は候補地にすら挙がっていませんでした。大阪では、一九七〇年の、千里の万博をやりました、そこが候補地に挙がっていたり、服部緑地とか鶴見緑地とか、もう既に公園として整備されているようなところが幾つか候補地に挙がっていたんですが、この夢洲というところは候補地にすら当初は挙がっていませんでした。ところが、当時の大阪府知事の松井一郎さんと市長の橋下徹さん、そして当時首相である安倍さんと菅当時の官房長官が、お酒を飲みながら、万博誘致をしましょうということを決めたんだと。これは松井一郎さんの著書でそういうふうに記されているんですね。その後、この万博開催地に、松井さんのトップダウンで夢洲ということが決められたという経緯があるんですね。

これは、元々、この夢洲ではIR、カジノをやるうじゃないかという計画が進んでいたんですけども、IR、カジノというのは民間の事業です。で、夢洲はごみの最終処分場ですので、道路もなければ電気、水道もない、インフラ整備がありませんので、カジノ業者にインフラ整備を負担させるのではなくて、国策である万博を誘致すれば、万博名目でインフラ整備ができるじゃないかということで誘致をされたのではないかと私たちは言っているわけですね。

この間、経産省は、一体どれぐらいのインフラ整備がこの万博名目でやられるのかということ、これは、大阪、夢洲だけにとどまらず、全体で九兆円ほどのそういう工事が必要になる、事業費が必要になるということを発表していますけれども、私たちの試算でも、この夢洲だけに限っても、土壌がもうふにゅふにゅですからね、豆腐みたいなところですから、液状化対策をやらなければならぬ、様々な事業費で一兆円ぐらいのお金がかかるだろう、こういうふうには見ています。

この夢洲の一区と二区なんですけれども、とりわけこの夢洲一区に問題があるということなんです。今日は、この問題を取り上げたいと思うんです。今日は、この問題を取り上げたいと思うんです。今日は、この問題を取り上げたいと思うんです。

○角倉政府参考人 お答え申し上げます。

大阪万博会場でございますこの夢洲一区についてでございますけれども、この夢洲一区につきましては、廃棄物処理法に基づき設置されました一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の管理型最終処分場となっております。

○辰巳委員 今ありました夢洲一区は、管理型の廃棄物最終処分場ということなんです。この処分場というのは、廃止されるというまでの期間があるわけですね。この期間は、水質の管理や通気装置を設けて、そして地下から発生するガスを排除することが求められます。この廃棄物処理場が

廃止ということになるためには、この水質が基準に適合して二年以上ガスの発生がないということが求められます。逆に言いますと、ガスが出てくる限りは、廃止という手続はできないということになります。

無論、廃止となった最終処分場であっても、土地の掘削や形質の変更が行われることにより、中の廃棄物が攪拌されて、廃棄物の発酵とか分解が進んで、再びガスが発生するなどの事態が発生するおそれがあるということなんです。

改めて、念のため確認しますけれども、この最終処分場である夢洲一区は、処分場として廃止をされているのでしょうか。

○角倉政府参考人 お答え申し上げます。

大阪万博会場でありますこの夢洲一区につきましては、廃棄物処理法に基づき廃止された最終処分場とはまだなっておりません。

○辰巳委員 ということなんです。つまり、現役なんです。現役の廃棄物の最終処分場ということなんです。

続けて聞きますけれども、この現役のごみの最終処分場において、このような巨大イベント、二千八百二十万人来場予定ですからね、こんな巨大イベントが開催されたことはあるんでしょうか。

○角倉政府参考人 お答え申し上げます。

環境省といたしまして、廃棄物の最終処分場のイベント開催状況について、網羅的に把握しているわけではございませんけれども、私どもが承知している事例として、廃棄物処理法に基づく廃止をしていない最終処分場におけるイベント開催の例といたしましては、例えば、泉大津フェニックスにおいて、複数日にわたって野外コンサートを実施した事例がある、このように承知をしています。

○辰巳委員 ほとんどが太陽光パネルなんですよ。ここの夢洲一区、見ていただいたら、メガソーラーと書いていますよね。だから、基本的に、それだけの多くの人が立ち入らない。まだ廃止されていないところというと、太陽光パネルが

ほとんどなんです。二千八百二十万人の方が、それこそ半年間にわたって来場するというのは例がないわけなんです。

念のため聞きますけれども、これは結局、廃止がされていないということですから、ガスは醸成され続けるということではないですか。

○角倉政府参考人 お答え申し上げます。

廃止の基準の一つとして、埋立地からガスの発生がほとんどない、又はガスの発生量の増加が二年以上ないこと、このように規定をされております。そして、夢洲一区につきましては、まだ廃止の手続が取られていない、こういうことでございます。

○辰巳委員 現役なんですね。

この度、万博協会は、この会場内の駐車場に、駐車場が幾つか交通ターミナルということでありますけれども、屋外消火栓設備を設置するための契約変更手続を行ったとされております。これはなぜ設置することになったんでしょうか。

○茂木政府参考人 今委員から御指摘ございました消火栓の設置でございますが、これは、夢洲地区の交通ターミナルの契約変更に際しまして、屋外の消火栓の設備を追加したということでございます。この追加した場所は、夢洲第一交通ターミナルの管理運営施設に設置する屋外消火栓設備ということになります。

これは、これまで消防とも協議をしながら消火栓の設置はやってまいりましたが、協会側で設計しておりますこちらの管理運営施設とそこに隣接します民間パビリオンの建物の詳細設計がようやく確定しましたので、本年の六月にその詳細設計をお持ちして消防協議を改めて行った結果、その管理運営施設に対して新たに二基の屋外消火栓を設置する必要があるとの御指摘を受けて、当該屋外消火栓を設置することとしたものでございます。

○辰巳委員 本来、駐車場というのは、消火栓の設備の設置義務というのではないわけなんです。ですから、改めて消火栓を設置しなければ駄目だ

ということになったということですよ。この交通ターミナルは、遠足や修学旅行の児童生徒が降り立つ場所なんです。そういうところにガスが出続けるという、この夢洲会場で行う万博ということになるわけなんです。

このメタンガス対策なんですけれども、約八十本のガス抜き管で一日最大二トン、これは二十五メートルプールでいいますと一日九つ分のメタンガスというのが出ているんです。

経産省に聞きますけれども、万博協会は、ガス抜き管から排出されているガスの濃度について計測をしております。今日、資料の二枚目、三枚目につけてありますけれども、このデータ、最新のデータが八月になるんですが、回避基準、つまり、そこで働いている労働者は、この濃度に達すると、工事を一旦やめて、中止をして回避しなければならぬ、そういう基準、あるいは爆発基準、これを超えた箇所と回数を答えていただけてますでしょうか。最も高いメタンガスの排出がされているのはどこかを併せてお答えください。

○茂木政府参考人 お答え申し上げます。

まず、委員から御指摘ありました回避基準でございますが、これは、いわゆる隧道等の閉鎖された空間において作業する労働者が安全を確保するために、それを念頭に置いて定めたものというふうに承知をしております。

その上で、博覧会協会が公表しておりますガスの濃度でございますが、八月に、グリーンワールド工区において、ガス抜き管、いわゆるガスを大気に放散する管ですが、その管において測定された結果というのを公表しております、先ほど御指摘があったガスの回避基準値、それから爆発基準値というのを公表しています。

いずれも、最も高い箇所というのは、いわゆる交通ターミナルが設置される場所にある測定点でございますまして、八月に十九回測定を行いまして、爆発基準値とされる、いわゆる五割以上の検知回数が十六回、それから、回避基準値とされる一・五割以上の検知回数が十九回というふうに

なっております。

○辰巳委員 濃度によって回避、濃度によって爆発で、今お答えがあったように、爆発する濃度の回数が十六回あったということですね。これは、一番高い箇所というのはどこですか。

○茂木政府参考人 一番高い数値が検出された場所は、これは交通ターミナルの中の測定箇所ということになります。

ただ、こちらのガス抜き管ですが、いずれにしても、これは屋外に設置されているものであります。それから、回避基準値以上の濃度を確認した場合には、こういった当該箇所の周囲を、一メートルぐらいですけれども、測定をしまして、現在も工事の際には安全な濃度であることを確認しながら作業をしておるところでございます。

○辰巳委員 資料にありますとおり、交通ターミナルのちよつと左上の方ですね、98G7、ここに非常に濃度の高いガスが出続けているんですよ。オーバーですからね。これは、引火すれば爆発ということになるガスが常時出続けていると言ってもいいと思うんです。

今おっしゃったのは、濃度が高いときは一メートル空けて、ちよつと済みませんということをやるという話ですが、出ているんですよ。そんな対策でいいんですか。このガス管は、八十本あると言ったのは、何本かは海岸の方に延ばして出している管もあるんですよ。こういう管は置いておいたら駄目なんじゃないですか。交通ターミナルということとは、みんなバスで来るところ、降りるところで、爆発濃度を超えるようなところがあるということでしょうか。

大臣、これはちよつと危険じゃないですか、このガスは。交通ターミナルにあるんですよ。いかがですか。

○茂木政府参考人 もう少し正確に申し上げますと、まず、今測定しているガスの測定濃度というのは、いわゆるガス抜き管と呼ばれるものでありまして、そこからそのまま大気に放散しております。委員も御承知と存じますが、爆発基準

値の数値はガス抜き管の上部で計測をしています。当然、そこから大気に放散しますと濃度は下がりますので、通常、こうしたメタンガスは大気に放散しますと爆発基準値を下回って、安全に運行ができるということになります。

ただ、これは、現状において、先ほど申し上げたのは、工事を行っておりますので、この工事を安全に行うための基準として運用をしております。当然、開幕いたしましてたくさんの方が来場されますので、その来場に応じまして、常時こうしたガスの濃度を計測をして発表してまいりますし、それに応じてどのような対策を取るべきかということは、現在、専門家と相談をしながら具体的な運用を検討しているところでございます。

○辰巳委員 誰かがたばこの吸い殻を入れたらどういになりますかね。

○茂木政府参考人 ガス抜き管については、大阪市の方からは二・二メートルの高さを要請されましたが、博覧会協会の方で更に排出口の高さを二・五メートルまでかさ上げをしております。それによって人の手が届きにくいような高さまでかさ上げすると同時に、もう一つは、今配置されているガス抜き管につきましては、人流などを踏まえまして、来場者が接近しにくいようなバックヤードに移す、あるいは、排出口を移設した場所に一部植栽を覆う、こうした対策を講じているところでございます。引き続き、専門家に意見を聞きながら、更なる対策を検討してまいります。

○辰巳委員 いや、高さ二メートルにしました、二・五メートルにしました、そういう問題じゃないんですよね。そういう問題じゃないですよ。人が通るところをちよつとよけてやりますと。だけれども、人が行けるんですよ。何か柵を囲ってやるわけじゃないんですね。

これは非常に危険だと思えますよ。何が起こるか分からないですよ。いろいろな対策をやるやると言うんですけれども、爆発が起きる前も対策はやっていたんです。だけれども、ガスはたまつて爆発が起きたわけですよ。そもそも、こういう

メタンガスが出続けるようなところで万博をやることそのものが私はおかしいと言わなければならぬと思います。

さて、この万博については、赤字になったらどうするかという話がこの間一年やられているんですけれども、改めて確認します。チケットの販売目標と実績、そして損益分岐点、これをお示しください。

○茂木政府参考人 まず、販売状況でございます。大阪・関西万博の想定来場者数ですが、二千八百二十万人としておりまして、複数回来場可能なチケットなど、様々な価格帯のチケットがございますことから、チケット販売については二千三百万枚というのを想定しているところでございます。十二月十一日現在の販売実績は、約七百四十二万枚の販売となっております。

博覧会協会としては、来場者想定約八〇％程度の来場数であっても収支相償となるような事業計画を立てているものというふうに承知をしております。

○辰巳委員 つまり、損益分岐点は二千三百万枚売れたうちの八割、一千八百四十万枚売れば、これは損益として成り立つということだと思ふんですね。

今、前売りとして一千四百万枚、開幕までに売りますように。実績は七百四十万枚ぐらいですよ。その半分ぐらいなんです。今、半分しか目標の前売りは売れていないということ。二〇〇五年の愛知万博の前売り入場券の販売目標は、八百万枚だったんですね。開幕約半年前、今と同じ時期でけれども、この時点で、目標の九七・七％売れていたんですね。大阪・関西万博は半分なんです。

これは、何でこんなに売れていないのかということになると思いますし、この運営費をどう賄うのか。一千百六十億円の運営費の約八割はチケット収入で、あとの残りはグッズの収入などになるんですが、チケットが売れなければ運営費が賄えないということになりますので、赤字ということ

に直結するわけなんです。

この問題について、大臣は、直轄で予算執行監視委員会というのを設けまして、これはちゃんといっているのかという委員会を、外部の識者を呼んで検討、議論させているんですね。ところが、この大臣直轄の委員会の中でも赤字の問題というのが出てきてまして、これから何を削るのか議論しておく必要がありますねということが再三にわたって委員から出されているんですよ。何を削るのか、運営費でもう既に執行は六割ぐらい執行していますから、残り、じゃ、何を削るのかということを検討せよということのを再三にわたって言われているんですね。これも再三にわたって回答が一切ないんですよ。

これは、大臣、あなたの直轄の委員会なんです。さちんと、何を削るのか、赤字になる懸念がもう具体的に出てきているわけですから、これは示すべきじゃないですか。

○武藤国務大臣 コンテインジエンシープランの中で、有識者委員から、運営費の支出に関して、万が一の際に支出をどのような形で削減できるのかといった点を含めて、幅広く考えていくべきである旨の指摘があることは承知をしております。

こうした指摘を踏まえた具体的な対応方針につきましては、現在、博覧会協会において、運営費の状況を見ながら、支出抑制の方策だけでなく、収入の拡大策を含めて検討を進めていると認識をしております。

博覧会協会を監督する立場にある経済産業省といたしまして、予算執行監視委員会の指摘について対応するよう博覧会協会に求めており、今後とも適切な執行を管理していきたいと思っております。

○辰巳委員 いや、もう具体的に詰めない。もう四か月前ですからね。それは総花的な話をしてもう仕方ないと思えますよ。

最後に、イスラエルの万博参加について聞きた

いと思います。

これまで政府は、ロシアの万博参加については、ウクライナへの侵略が、命輝くという万博の理念にそぐわないという発言をしており、ロシアの参加は想定されないという説明を繰り返してきました。

さて、イスラエルなんですけれども、十一月の二十一日、日本も加盟している国際刑事裁判所、ICCが、ネタニヤフ首相らに逮捕状を発付いたしました。これは、改めてちよつと内容だけ聞きます、どんな内容ですか。

○英利大臣政務官 ありがとうございます。お答えいたします。

現地時間十一月二十一日、ICCは、パレスチナの事態に関し、人道に対する罪及び戦争犯罪で、イスラエルのネタニヤフ首相らに対する逮捕状を発付した旨、発表いたしました。

我が国は、ICCの独立性、こちらを尊重してきており、また、パレスチナ情勢にいかなる影響を与えるかという観点も含め、引き続き関連の動向を重大な関心を持って注視してまいります。

○辰巳委員 大臣、ロシアの不参加、イスラエル、これは同列で論じるべきじゃないというのが一応これまでの政府の立場なんですよ。イスラエルの参加はいいんだと。ただ、今あったように、ICCがネタニヤフ首相に対して逮捕状の発付までしたわけです。これは、同列で論じるべきではないというその論自体がもう成り立たなくなっていると思うんですよ。

イスラエルの参加、日本政府として、これはノーと言うべきじゃないですか。

○宮崎委員長 武藤経産大臣、申合せの時間が経過しておりますので、答弁は簡潔にお願いします。

○武藤国務大臣 政府内でよく協議をしていきたいと思います。

○辰巳委員 イスラエルの不参加、これは政府がきつちり立場を示すべきだと思いますし、危険な万博は中止することを求めて、質問を終わります。

す。

以上です。

○宮崎委員長 次に、吉良州司君。

○吉良委員 有志の会、吉良州司です。

今日は、エネルギー安全保障とそれから電力の安定供給、これを念頭に置きながら質問をさせていただきます。

最初は、少し外務委員会に迷い込んだのではないかという前置きをさせていただくことをちょっとお許しください。

現在の日本外交を見ると、その外交方針というのはもう二つしかない。一つは対米協調、もう一つはG7との共同歩調。私は唯一CPTPPについては高く評価しておりますけれども、今言ったように、基本は、米国と仲よくやっていたらいい、G7と協調していればいい、こういうふうにしかならないんですね。

ところが、事エネルギー安全保障という観点からは、一〇〇％自給できる米国、それからEU全体、広域で見ればやはり自給が可能、そういうG7の主要国とは、日本の置かれた立場は全く違うわけです。そういう中であっても、日本が生きていかぬかのエネルギー安全保障についても、外交上どうしても、今言った対米協調、それからG7との共同歩調を優先してしまう。その最たるものが、私はウクライナ問題だというふうに思っているんです。

お手元に資料を渡していますけれども、私は、二〇二二年の二月三日の予算委員会と、二月十六日の、これは予算委員会の分科会ではありますが、ここで、ウクライナに中立化を求めなければ、少なくとも、NATO加盟というのを放棄するか、一定期間でもいいけれども、そこについては凍結するというのをやらなければ、ロシアが攻め込んできてしまう。

もちろん、一番困るのは、罪のないウクライナの人たちが犠牲になることなんでしょうけども、でも一方、日本を考えたときに、さっき言ったエネルギー安全保障の観点からは、もちろん一番大事な

天然ガスは、オーストラリアあり、マレーシアあり、インドネシアあり、最近は米国あり、中東のカタールとかもありますけれども、供給国が多様化してはいるんですが、やはりサハリン2始め、輸送期間が極めて短いロシアからの天然ガスの輸入というのは日本にとって非常に助かった。当然、地政学的リスクを考えたときに、ロシアに一定以上依存し過ぎてはならないです。そういう意味では、八%ぐらいだったので、適度だったと思うんですが。ただ同時に、日本政府としても推し進めてきた北極海航路の開通、そしてそれに伴うロシアのヤマル半島、ヤマルにおける、やはり天然ガスの開発。ここからの輸入も可能になれば、日本の化石燃料、特に天然ガスの、LNGの安定確保というのはかなり盤石になったと思っ

ているんです。

それのみならず、ロシアがウクライナに攻め込んだとしたら、当時私が、まだ攻め込んでいない段階でいろいろ問題意識を言っていますから、そのときに一つ挙げたのは、これはこれを契機に中ロが接近するよということも申し上げていました。正直言って、北朝鮮とロシアがくっつくというのは、私は想定していませんでした。ただ、中ロは確実にくっつく。

私たちは、民主党政権のときに、防衛大綱を大きく変えました、二二大綱。それは、北に備えた防衛体制から、今後は、南西諸島だ、東シナ海だ、ある意味、中国を想定した防衛体制が必要なんだと。その背景には、北はもうそこまで力を入れて備えなくても大丈夫だと。それもあって、世耕さんもおられますけれども、日ロ経済共同活動だったですかね、そういうこともしながら、また平和条約締結というのを安倍総理が非常に前向きにやっておられて。

そういう、今言った、軍事安全保障とあえて言いますけれども、軍事安全保障上もロシアと決定的な亀裂を生じさせないことは重要であつたし、我が国の資源エネルギーの安定確保という観点からも、ロシアと決定的な亀裂を招いてはいけな

い。

こういう観点からすると、私は、当時林外務大臣だったですけれども、本当に胸ぐらをつかんででもいいから、もうとにかくロシアがウクライナに攻め込まないような手を、日本だけでできないのは分かっている、だけれども、それをヨーロッパとアメリカにとことん働きかけるということを訴えていました。

そういう意味で、私は、今日、経産委員会という場で言いたいのは、今申し上げましたように、ロシアという国は、近距離でもあり、そして、石油もそうですけれども、特に天然ガス、資源エネルギーの安定確保という観点から極めて重要な国であつた。今でこそ、ロシアと仲よくするというのかと、攻め込んだ後は誰でも言いますよ。けれども、私が言ったのは攻め込む前です。

そのときに経産省は、今言ったそんなことが起ころうとしたら、我が国の資源エネルギーの安定確保に支障を来するんだ、外務省よ、また官邸よ、何としてもこれを阻止するように動いてくれというような、縦割りがあるとはいえ、経産省としてそのような動きをしたのか、そこをお聞きしたいと思えます。まあ、武藤大臣のときではないんですけれども。

○依田政府参考人 お答え申し上げます。

先生御指摘の、ロシアによるウクライナ侵略に至るまでの間ということでございますけれども、我が国を含む国際社会におきまして、事態の平和的解決に向けたロシアへの働きかけを含め、懸命な外交努力ということを政府一体で行ってきたというふうに承知しております。

侵略直前の令和四年二月十七日には、電話会談におきまして当時の岸田総理からプーチン大統領に対しまして、力による一方的な現状変更ではなく、外交交渉により関係国にとって受け入れられる解決方法を追求すべきであるということ働きかけてきました。そういう意味では、経産省も含めて、総理からそういうような働きかけを、外交努力を続けてきたという状況でございます。

○吉良委員 外務委員会に立つたら更間いをがんがんやるんですけれども、ここは経産委員会なので、そこはぐつとのみ込んでやりますけれども。今言った、プーチンに働きかける。これは、もう一言だけです、NATO側が、当面はウクライナを入れるつもりはないとか、アメリカ側が、NATOに入れるつもりはないということ働きかければ。プーチンに力による現状変更云々と言ったって動くわけないじゃないですか、そんなことは。

本当は、この資源エネルギーだけじゃなくて、食料価格も上がることは見えていましたので。今になってみればよく分かるわけです。これによって資源価格が上がって、食料価格が上がって、それじゃなくても日本中が物価高で苦しんでいるときに、なぜこういうものを事前にもっともつと必死になって阻止しようとしなかったというのが、私は、私はもう本当に残念で、じくじたるものがあります。

ただ、結果的には、侵略があつて、そして、化石燃料、少なくとも、サハリンの権益を維持したということについては、私は非常に高くしているし、さっき言ったロシアとの関係の中で、辛うじて、命綱じゃないけれども、関係をいざれ改善するぞというメッセージを私は日本政府としても発しているというふうに思つて、そこは高く評価しておりますけれども、それでも、今回のような事態になって、日本自体が自ら首を絞めるようになってきていることは残念でなりません。本当は、G7広島サミットで、侵略後も、一刻も早く終戦すべきだということを、またG7に、アメリカを含めて働きかけるべきだったというふうに思っています。

そのことを申し上げた上で、何でもここまでエネルギー安全保障、天然ガスの供給先、安価に輸入することの重要性を言うかといえば、当然ながら、我々は常に世界の地政学的リスクにさらされているからであります。そして、その地政学的リスクにさらされていいようにするためには、